

## イングリッシュキャンプ（外国語活動）

### 1. 事業の概要

#### ○ 事業の趣旨

仲間とともに宿泊し、英語を使って様々な体験活動を行うことをとおして、小学校外国語活動の目標であるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成に寄与するとともに、グローバル視点を持ち、地域で意欲的に活動することができる青少年を育成する。

#### ○ 実施期間

平成30年11月15日（木）～平成30年11月16日（金） 1泊2日

#### ○ 対象者・参加者数

南国市立長岡小学校4年生 39名

#### ○ 指導者等

国立室戸青少年自然の家職員2名

ボランティア6名

（ベルギー2名、デンマーク1名、ドイツ1名、アメリカ1名、イギリス1名）

#### ○ 活動プログラム

2日間の活動プログラムは、原則1人のボランティアと8人の児童によるグループ活動として行った。

11月15日（木）	11月16日（金）
13:15 長岡小出発	6:00 起床
15:30 自然の家到着 入所オリエンテーション（職員）	7:30 朝のつどい
15:45 外国人ボランティアとオリエンテーション リング「ミッションゲーム」※1	7:45 朝食
17:00 タベのつどい	8:45 退所点検
17:15 夕食・自由時間	9:00 交流活動 「流木クラフト」※2
19:00 キャンプファイア	「インターナショナルゲーム」※3
20:00 入浴	12:00 昼食
22:00 就寝	13:00 おわりのつどい
	13:15 自然の家発
	15:30 長岡小到着

※1「ミッションゲーム」：英語の説明による7の課題に挑戦する活動

（活動の例：「好きな動物を英語で表現」、「全員で長縄を20回英語でカウントして飛ぶ」等）

※2「流木クラフト」：流木の木片を紙やすりで磨きストラップを作成する創作活動

※3「インターナショナルゲーム」：ボランティアの出身国で行われている様々なレクリエーションを体験する活動

## 2. 活動の様子

### < 1日目 >

オリエンテーションでは、ボランティアが自国語と英語で自己紹介をし、国旗を元に出身国当てクイズを行った。ゲームでハイタッチをするなどスキンシップを取り入れ雰囲気作りを行った。はじめは緊張していた児童もハイタッチを繰り返す中で表情が柔らかくなった。

ミッションゲームの課題を解決していく中で、児童自身の知っている英単語を活用するなど英語を使いコミュニケーションを取ろうとする場面が見られ始め、ボランティアの英語による呼びかけにも自然な態度で聞くことができはじめる等つながりを深めていった。

ボランティアと一緒に夕食やベットメイキングといった活動をとおして、ボランティアが何を伝えたいかを一生懸命聞く児童の姿が随所に見られた。

キャンプファイアでは、英語によるゲームやダンスを楽しむことができた。このころになると児童はだいぶ英会話になれてきており、予想以上に会話が成立していることに驚かされた。



### < 2日目 >

児童はボランティアと一緒に寝具の後片付けを行った後、朝食をとった。昨日よりもボランティアとの会話の量が増加していた。

当初、流木クラフトは、会話がいない活動として導入したが、予想以上に児童は英会話になれてきており、作業をしながら児童と打ち解け教え合う姿が見られた。

インターナショナルゲームでは、ボランティアが自分の出身国のレクリエーションゲームを教えに行った。児童は経験したことのないゲームであったが英語による説明を理解してゲームを楽しむことができた。

おわりのつどいの後、ボランティアによる見送りの場面では、児童が英語でお礼を言ったり、話しかけたりして別れを惜しむ児童の姿が見られた。



## 3. 事業の成果と課題

### ○ 参加者の感想

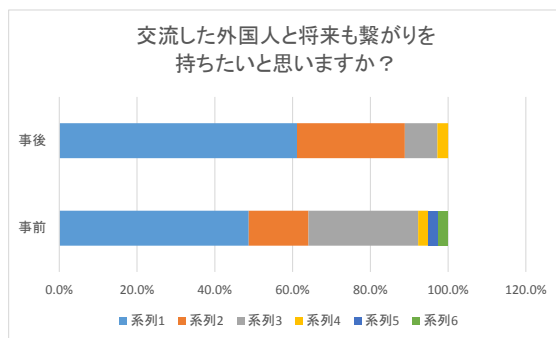
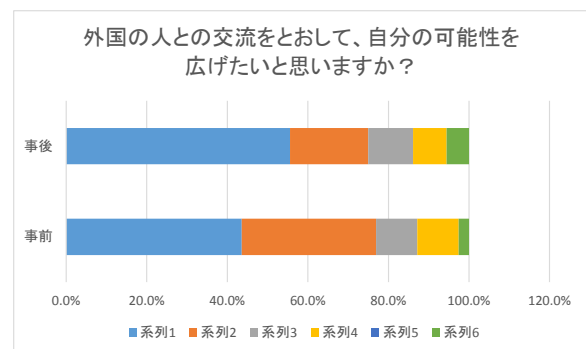
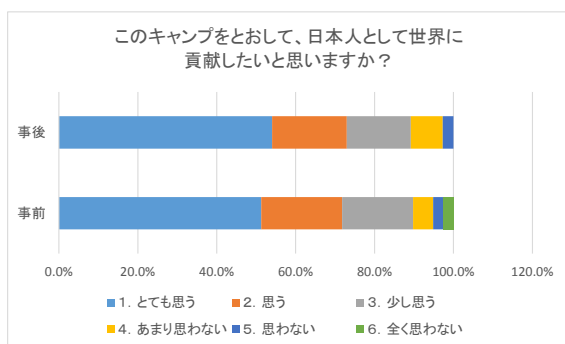
- ・私は、あまり英語は得意じゃないけど外国の方と話すことで少しでも覚えることができた。
- ・英語でしゃべっていることは完全にわからなかったけど、何を言いたいかわかる気がしました。





### ○ 事業の成果

- ・外国人とふれあう経験が少なかった児童にとり、ボランティアの英語によるコミュニケーションが充実した経験となり、外国語活動への意欲の向上が見られた。
- ・少人数グループにボランティアが配置されたことから児童一人一人の英語に触れる機会が多く、充実した外国語活動の授業となった。



### ○ 事業の課題

- ・学校のスケジュールとボランティアの来日のスケジュールを調整すること。
- ・特別な支援が必要な児童がいる場合の対応。